あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002. 10月号

市制７０周年・博物館開館２５周年記念 特別展

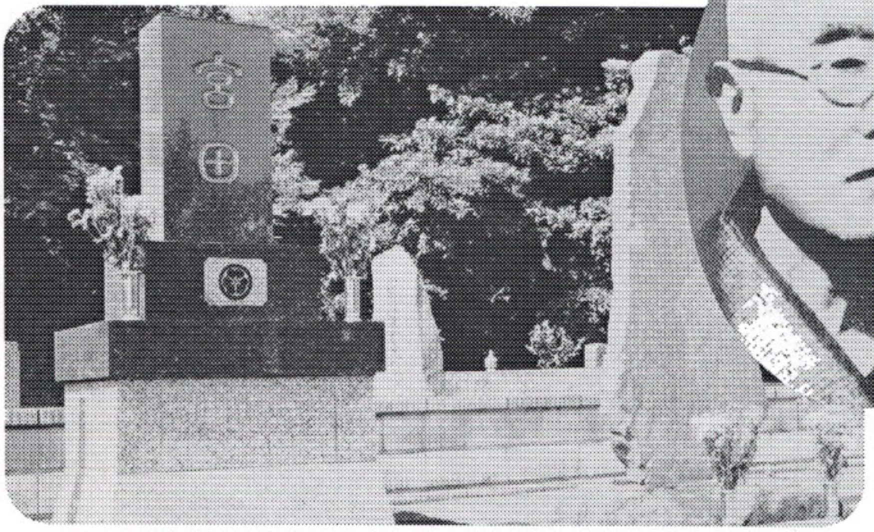
金目の地域から大志を拓く

－金目の自由民権運動－

　自由民権運動は、今から１３０年ほど前に全国に広がり、組織化された運動です。その中でも、神奈川県下の民権運動は全国でも屈指の活動を展開した地域として知られます。また、大住・淘綾両郡は、豪農を中心に国会開設運動や民権学習活動で高いレベルの運動を実践した地域でした。その中心的な場所に金目村があります。金目村の民権家には、宮田寅治、猪俣道之輔、森　三郎がいます。明治１７年以降、豪農を中心とした民権運動は行き詰まり、この時期から政治運動の枠を越えた地域住民の生活全般にわたるさまざまな文化活動に取り組みます。

　金目で実践された事業や運動を先の民権家トリオの活動を通して掘り起こします。

宮田寅次



共同墓地の宮田寅次の墓石

■特別展関連事業

◎記念講演会：相模の民権運動

講師：野崎昭雄氏（東海大学助教授）
期日：平成１４年１１月３日（日）
時間：午後１：３０～３：００
場所：博物館・講堂

◎現地探訪会：民権の里を訪ねて

期日：平成１４年１１月１０日（日）
時間：午前９：００～１２：００
申込み方法：両事業とも往復はがきで、住所・氏名電話番号を記入の上、１０月２７日迄に博物館へ。

お問い合わせ：平塚市博物館　〒２５４－００４１平塚市浅間町１２－４１
℡０４６３－３３－５１１１

■開催期間：平成１４年10月19日（土）～12月１日（日）＊月曜日休館
■開館時間：９時～１７時（金曜日は１９時まで開館）

寄贈品コーナー

けものと人のくらし

期間：10月30日まで

18の大学で博物館学を学ぶ19人の学生たちが、９月11日から７日間の博物館実習を行いました。実習は朝の朝礼から始まり、１日中、担当の学芸員について、博物館の調査活動、資料整理、普及事業の実習を行いました。その中で、直接市民の方たちの活動に接し、地域の人たちと共に歩む博物館の実像にふれたり、博物館の持つ問題などの見聞をしました。この実習の総仕上げが、寄贈品コーナーの展示です。実習生が総力を傾けて取り組んだ展示をご覧ください。また、実習に参加した学生の中から３名に実習の感想を書いてもらいました。

寄贈品コーナー展示　全体タイトル　　けものと人のくらし

目　的　“けもの”と人々がどのような関係を持って暮らしてきたのかを、縄文時代の貝塚からみたけものの利用、庶民の暮らしと信仰、現代のけものの状況という3つのコーナーに分けて明らかにする。

○掘り出されたけものと人の関係

五嶺ヶ台貝塚の出土物を用いて、縄文時代における人々とけものとのつながりを、狩猟の対象とされたけもの、道具として利用されたけものという面からとらえる。

○身近になったけもの

人々の生活の中に、実はけもの文化は身近な存在である。今回は特にキツネに焦点を当て、信仰の中に入り込んだ、けものの姿を取り上げる。

○けものと人との共存

現代における県内のけものの状況を、レッドデータブックから把握して、将来どうあるべきかを、個々に考えてもらう。

博物館実習を終えて

蓑島 あすか

この実習では、学芸員の方々が普段やっている仕事をそのまま体験する事ができました。標本整理や博物館行事への参加などから、展示資料と学芸員、または利用者と学芸員の関係をリアルに学べたと思います。学校の授業で習ったような項目もいろいろとあったのですが、やはり実際やってみて解った事の方が多かったです。

実習生による展示制作では、子供を対象にしたパズルの展示を担当したのですが、展示を完成させた後、偶然来ていた小学生がパズルの展示に注目してくれて実際パズルをやってくれました。本来、計画当初にはなかった案を無理やり採用してもらっての展示だったので、少々不安があったのですが、その小学生を見た瞬間パズルを手がけた仲間全員が感動して、泣きそうになりました。このように、みんながそれぞれ思い入れのある展示でいっぱいになった、寄贈品コーナーをたくさんの人に見てもらいたいです。また、この経験によって、博物館展示を前とは全然違った視点から見るようになったと思います。

塚田　友二
今回の実習では、市民ボランティアの人との交流、標本や生物資料の整理、漂着物を拾う会への参加、そして寄贈品コーナーの企画・展示などさまざまな博物館で行われていることを体験することができました。
実習の中で一番印象に残ったことは、やはり、寄贈品コーナーの企画・展示です。今年度のテーマは“けもの”でした。当初は、他の常設の展示と見劣りすることなく、並べることができるのか不安でした。自分は”人とけものとの共存”の担当でしたが、企画案ではうまくイメージされていたこともなかなかうまく表現できませんでした。しかし、展示したけものの剥製の下に、山地の地面を出すために凸凹を作り落ち葉をひいたり、展示に地図を加えたりした結果、当初の企画案以上に、コーナーの雰囲気を出せたと思います。また、普段の大学の授業とは異なって、まったく異なる専門分野の人たちが集まって、“けもの”というひとつのテーマに関して話し合いができたことはとても新鮮でした。

パズルの展示を手にする小学生

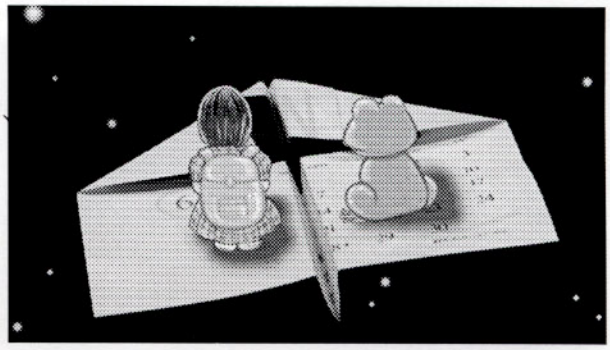
竹内　明子
短い期間でしたが、とても勉強になったと同時に、楽しく、いい雰囲気の中で実習を終えることができました。
今回実習を終えて、まず感じたことは本当に内容の濃い充実した一週間だったと思います。資料整理、普及活動の参加、そしてメイン実習となる展示制作と、さまざまな体験をさせていただきました。メインとなる寄贈品コーナーの展示制作は、四班に分かれ企画し投票により１つの班の企画を制作するという形だったのですが、最終的には全員の意見が活かされた展示になったので、とてもよい形になったと思います。
学校で展示コーナーを紙面上で作るということをしたのですが、実際に展示制作を行ってみて、展示物の制作からパネルの位置決めまで、すごく大変で多くのことを考える作業だと実感出来ました。この一週間で、学校で学んできたこと・学校では学べないこと、全てを体験できたと思います。
学芸員の先生方も親切で楽しく実習が終わっても通いたいと思える博物館でした。

プラネタリウム番組

第三惑星軌道の旅

投影期間：10月12日～12月1日の土、日曜日

私たちがふだん何の疑問もなく立っているこの大地、地球は、1年で太陽を一周する公転運動をしています。その軌道は9億kmにもおよび、速度は時速11万kmにもなります。これは、音速を超える速さです。つまり、通過した地球に向かって、うしろから「おーい」と叫んでも、声は地球に追いつけないことになるのです。(ま、空気のない宇宙空間では、音は伝わりませんが)
さて、1年で一周、ということは、毎年同じ日には同じ場所を通っている、ということになります。つまり、カレンダーは、私たちを乗せた地球列車の正確なダイヤグラムなのです。ところが、もっと正確に言うと、この軌道一周に要する時間は365.2422…日で、端数が残ります。この誤差はうるう年から年々積み重なるので、このダイヤはやはり1日以内の誤差を含んでしまいます。
カレンダーにはときどき「春分」や「立春」などという二十四節気が書かれています。日本では明治の初めまで太陰太陽暦を用い、月の満ち欠けの周期を1ヶ月にしていました。この周期は、1年の日数に対し11日の端数を生じてしまい、1年の長さの誤差が大きく不便なので、季節の目安を別に加えたものなのです。これらは、天文計算により求められる地球の位置を基準に決められるので、これこそが本当の地球のダイヤグラムと言えるでしょう。旧暦=>不便=>後進的、などとは思っていませんでしたか？旧暦は、実は精密な天文計算によって作られた、複雑な暦だったのです。
さあ、この地球列車が遭遇する、季節ごとの車窓の風景はどんなものなのでしょう。ちょっとひねくれたカエルといっしょに、あなたも、旅してみませんか？



博物館カレンダー

2002年10月の行事

2	水		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	特研室
3	木		展示解説ボランティアの会	特研室
4	金		古文書講読会	講　堂
5	土	○	考古学入門講座「環境と生業」	講　堂
6	日		地質調査会「大山亜層群３」	野　外
10	木		石仏を調べる会	真　土
11	金		古文書講読会	講　堂
12	土	☆	プラネタリウム「第三惑星軌道の旅」(〜12/1)	ﾌﾟﾗﾈ室
		◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
			地質調査会「読書会」	特研室
		◎	星を見る会「月を見よう」	屋　上
			天体観察会	屋　上
13	日		民俗探訪会「共和のお峰入り」	山北町
			水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
16	水		裏打ちの会	科学室
			民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	野　外
		○	プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	ﾌﾟﾗﾈ室
17	木		展示解説ボランティアの会	特研室
18	金		古文書講読会	講　堂
19	土	☆	特別展「金目の地域から大志を拓く」(10/19〜12/1)	特展室
		○	考古学入門講座「環境と生業」	講　堂
		○	自然の新聞を作る会「秋の高麗山」	土　屋
20	日	◎	ろばたばなし	展示室
			相模川の生い立ちを探る会「中央火口丘を見る」	箱根町
24	木		石仏を調べる会	真　土
25	金		古文書講読会	講　堂
26	土		平塚の空襲と戦災を記録する会	特研室
			天体観察会「星の写真」	屋　上
27	日		古代遺跡を探す会	土沢
		○	自然観察ゼミナール「鳥のねぐら」	科学室

2002年11月の行事

1	金	☆	寄贈品コーナー「火山の噴出物」(〜11月28日)	展示室
			古文書講読会	講　堂
2	土		地質調査会「大山亜層群４」	野　外
6	水		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	野　外
		○	プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	ﾌﾟﾗﾈ室
7	木		展示解説ボランティアの会	特研室
8	金		古文書講読会	講　堂
9	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
			地質調査会「読書会」	特別研
10	日		民俗探訪会「城島の社寺を訪ねて」	野　外
			水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
14	木		石仏を調べる会	特研室
15	金		古文書講読会	講　堂
16	土	○	考古学入門講座「環境と生業」	講　堂
		○	自然観察ゼミナール「鳥のねぐら」	野　外
17	日	◎	ろばたばなし	展示室
			相模川の生い立ちを探る会「東伊豆単成火山を見る」	修善寺
18	月		天体観察会「しし座流星群」	函　南
19	火		天体観察会「しし座流星群」	函　南
20	水		裏打ちの会	科学室
			民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	野　外
21	木		展示解説ボランティアの会	特研室
22	金		古文書講読会	講　堂
24	日		古代遺跡を探す会	栃木県
28	木		石仏を調べる会	特研室
30	土	○	考古学入門講座「環境と生業」	講　堂
		○	自然の新聞を作る会「花水川」	花水川
		☆	寄贈品コーナー「生物部門」(〜12月27日)	展示室

☆：展示（無料）・プラネタリウム（観覧料）　○：申込制
◎：自由参加　無印：年間会員制

☆秋期特別展

「金目の地域から大志を拓く－金目の自由民権運動－」

明治時代の自由民権運動及び、金目村出身の民権家達が遺した業績を顕彰します。

会　期：10月19日（土）～12月1日（日）

○特別展記念講演会「相模の民権運動」

日　時：11月3日（日）13時30分～15時
講　師：東海大学助教授　野崎昭雄氏
会　場：博物館講堂
定　員：100名（多数の場合は抽選）
参　加：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入して10月27日までに博物館へ申し込む。

○特別展関連事業「民権の里を訪ねて」

日　時：11月10日（日）9時～12時
場　所：金目地区
定　員：40名（多数の場合は抽選）
参　加：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入して10月27日までに博物館へ申し込む。

●公募写真展のお知らせ

平塚市博物館第6回公募写真展

テーマ：「相模川流域の自然と文化」
公募期間：平成14年11月1日～12月27日
展示期間：平成15年3月2日～4月20日

くわしくは11月号「広報ひらつか」「あなたと博物館」、博物館ホームページをご覧ください。

☆寄贈品コーナー「けものと人のくらし／博物館実習生の展示」

会　期：9月20日（金）～10月30日（水）まで

タヌキ・シカなどの大型のほ乳類の分布状況や、人との関わりについて、学芸員を目指す大学生達が展示しました。

☆プラネタリウム

「フリートークプログラム」

期　間：10月6日（日）まで

「第三惑星軌道の旅」

カレンダーは地球列車の運行時刻表です。なぞのカエルとともに、1年間の地球軌道の旅に出かけましょう。

期　間：10月12日（土）～12月1日（日）
投影日：土日曜日の11時と14時

あなたと博物館　27巻　7号　通算310号　発行　平塚市博物館　2500
〒254-0041　平塚市浅間町12-41　Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949
E-Mail.muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp　ホームページ　http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/